

# 東日本大震災を経験して

太田ネフロクリニック 技術部

○和地智昭 小嶋直幸 吉川美穂

山中祐治 二階堂剛史 酒井伸一郎

## 【はじめに】

東日本大震災を経験し、地震発生後から復旧までの技術部の役割を報告する

# 【被害状況】

- 停電 3/11(14時46分)～3/13(22時30分頃)
- 断水 3/11(14時46分)～3/15(12時頃)
- 透析室 コンソール1台転倒
- 機械室 薬液タンク、A液タンクの転倒にて異臭発生
- 施設内 物品やコンピュータの転倒
- 施設外 駐車場のアスファルトの陥没  
透析液排水処理装置の配管破損  
ガス管の破損

# ～施設内～



コンソール1台転倒  
ほとんどのカバーがはずれてしまった



薬液タンクが転倒し異臭発生  
供給装置など大きくずれる



サーバー転倒



物品は散乱し通路をふさぐ

# ～施設外～



排水処理施設の液状化現象



駐車場のアスファルトの陥没



# 【実働】

3月11日(金)

患者25名が透析中だったが、透析中断の指示にて返血  
機械室の異臭処理(患者のシーツを代用)  
施設内の安全確認をして自宅待機と院内待機にわけ  
る  
独居老人(患者)を安全の為当院に泊める

3月12日(土)

96台のコンソール内部と配管を目視にて確認  
さらなる転倒防止の為、キャスターのロックを確認  
薬液タンク、A液タンクの転倒防止の為、ベルトで固定  
電話回線と職員の携帯を使用し患者の安否確認  
(連絡が取れない場合は自宅又は近所の避難所へ)  
当院患者の依頼透析  
県南地区 A病院(30名)



3月13日(日)

当院の患者79名の依頼透析

県南地区 B病院(49名)

県央地区 C病院(30名)

電気復旧後(22時30分頃)、貯水タンク内の水を利用しランニング開始  
配管の漏水一箇所発見し修復(午前3時頃)

3月14日(月)

当院の患者45名の依頼透析

県南地区 A病院(25名)

県央地区 D病院(20名)

常陸太田市消防本部に給水の依頼

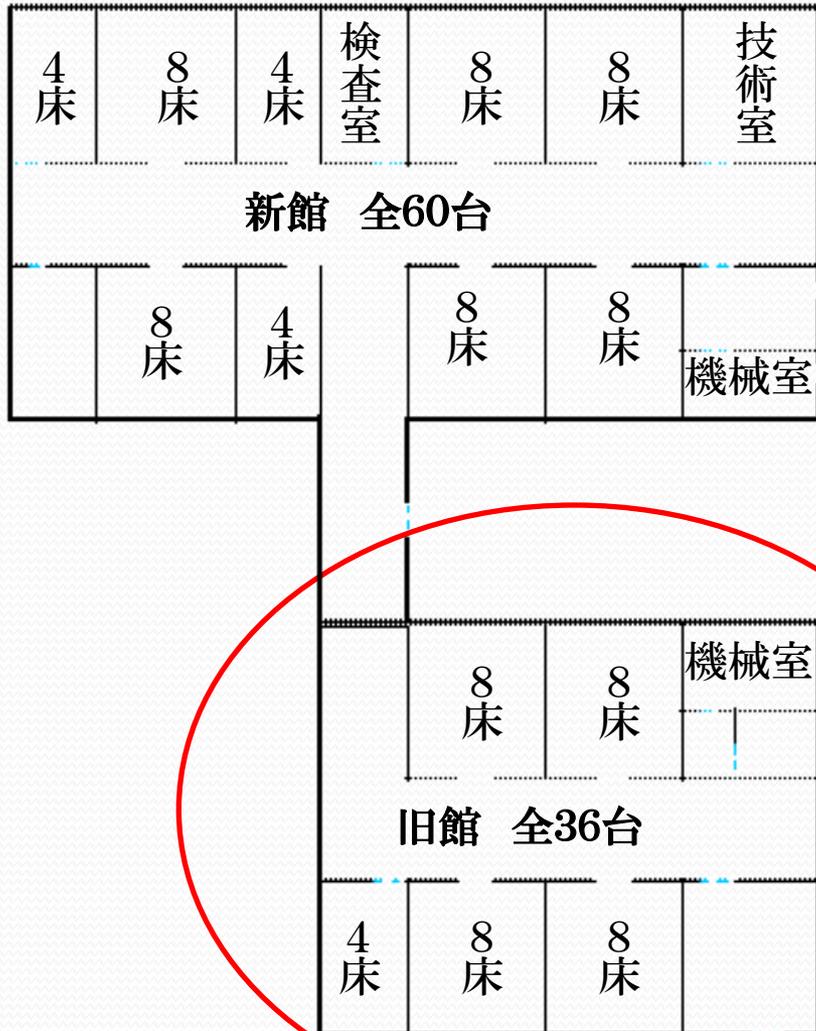
ポンプ車3台によるピストン輸送で、水の確保をする(1台2トン)

**午後より当院の透析再開**

3月15日(火)～19日(土)

水道復旧後、他施設(3施設)の患者64名の受け入れ透析を行なう

# 【当院における受け入れ透析】



- 当施設の構造  
新館、旧館の2館に分かれている

➡ 当院患者が使用  
(60床)

➡ 他施設 (3施設) が使用  
(36床)

## 【受け入れ透析にあたって】

- 災害時医療を提供する状況の中、透析時間の短縮などの影響があまりなかった
- 旧館を他施設が使用することにより、互いの患者・スタッフのストレスが少なかった
- 他施設のスタッフには、装置の使用説明のみで対応出来た
- 他施設スタッフとの交流が深まった

## 【結語】

- 今回の災害でライフラインの重要性を改めて知ることとなった
- いつ復旧するか分からない状況の中で、技術部として出来ることを判断し対処したことにより、迅速に透析が再開できた
- 他施設の患者を受け入れることにより地域連携に貢献できた